

# 長野県クラブ Vol.56

社団法人日本建築家協会  
The Japan Institute of Architects

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>

2002.11.1



▲保存問題拡大委員会



(二本松・遊廓)



(旧八十二銀行八幡支店)  
▲町づくり見学会飯田市ウォッチング



## トピックス

### JIA会員はどこへ向かうのか…「共創」すること

副会長 高橋 重徳  
(交流・会員委員会担当)

去る7月23日、会員委員会開催の『本音で語る会』に於いて、“JIA会員はどこへ向かうのか”のテーマで白熱した討論が展開されたことは、すでに概要をクラブインサイドで報告されました。

私たちの向かう方向を考えるとき、現在の急速な時代の変化に伴い、従来通りの、特に内向きで画一的な方法では、顧客に受け入れられなくなっています。従って、市民や消費者に分かり易く、目に見えるものにしようという考え方に基づいて、JIA長野県クラブも外向きに変わろうとしています。このことは前号、Vol.55トピックス「小さくてもキラリと光るJIA活動を」において会長からも述べられている通りです。

それ故に、地域会も会員個人も、今までには無かった様な価値を創り出していかなければならないのです。ただ重要なことは、「価値あるかどうか」を判断するのが最終的に顧客であるということです。さらに、その新しい価値を創り出すことは、たった一人の人間の努力では益々難しい時代になっている状況ではないでしょうか。従って、顧客、地域会、会員個人が同じ場所を共有することで、その新しい価値を目指すこと、すなわち「共創」(大勢の人が同じ目的を共有し、それぞれが異なる能力を発揮して新しい何かを創り出すこと)することが最も大切なことであると考えています。こうした意味でも、志を同じくする地域会員が、あらゆる機会をとらえて集い、コミュニケーションを通じて、お互いを認め合い、さらにCPD(継続職能研修)などを通じて、学び合い、そして実践することが特に重要な位置付けられるでしょう。この度の規定改定や、会の運営方針の改革もその方向性をはっきり示すものであると考えています。

幸いにして、長野県クラブは、現在でも全国的に見ても先進的なほど賛助会員と「理想的な車の両輪」の関係が確立されていると考えてい

ます。今後とも、交流委員会を中心に、更なる両者のより良い関係が築かれる事を確信しています。賛助会の皆さんのご支援宜しくお願いします。

また、従来から新しい会員や若手の会員の新鮮な感覚を積極的に取り込む努力を重ねていますが、こうした激しく、厳しい変化の時代だからこそ会員増強を強力に進め、会の活性化と結束を目指す原動力にしたいと考えています。本年度は特に順調に入会希望者があり期待できそうですが、尚一層の皆さんのご協力をお願いします。

さらに、市民や消費者との関係については、地域会の特色ある事業は勿論のこと、タイムリーな広報活動、地域に根ざしたボランティア活動など、あらゆる機会を通じてお互いが積極的に関わることで、私たちの向かう方向を注意深く探しながら、一步一步実践する努力をする必要があると考えています。 こうした努力の積み重ねによって、社会が求めていることを学び、感じ取ることが出来、次へのステップとなることになるでしょう。私たちは謙虚に地域社会の一員として、顧客、地域会、会員個人を良いパートナーとして「共創」することで、新しい地域社会創造に積極的に参加することが重要です。そして、社会的職能倫理を持ち合せた建築家が活躍を求められているこの時こそ、大いに存在価値を地域社会にアピールしようではありませんか。頑張りましょう！！



# 保存問題拡大委員会長野大会にむけて

保存問題特別委員長

川上 恵一

恒例になった関東甲信越支部保存問題委員会主催の拡大会は、数えて12回目を迎え、2巡目に入り、来年2月22・23日の二日間にわたり長野で開催されることになりました。

昨年の栃木大会では150名程の参加があり、建物見学やシンポ、ディスカッション様々な行事がありました。今回お迎えする長野県クラブでも準備のため特別委員会を結成し、依田副会長（支部保存問題委員）を中心に準備を始めています。

今回の長野大会ではテーマや概要を決め、大勢の仲間に参加を促し、実のあるものにしようと、今年3月頃より企画を検討していましたが、まず支部メンバーによる下見を兼ねて現地での理論合宿とのことで、去る8月23・24日に長野・藤屋旅館にて地域会のメンバーも含め17名程が泊りがけで集まり、保存問題についてのお互いの意見を本音で話し合いました。大会のメイン会場としては長野と須坂を予定し、地域における近代建築を紹介、今後の保存の意義やあり方を探るものであります。テーマについて意見百出でなかなかまとまりませんでした。「カキ割りではダメだ!」「レプリカでも本気でやれば保存の意味がある!」「創造は過去を壊すことから始まったのだ!」「モダニズムばかりが保存ではない!」「いったい誰に向かって話すべきか?」「住民に啓蒙していかなくては!」「そういう住民とかけ離れた目線の高さこそが障害なのだ!」…などなど、熱気にあふれたものの時間切れになってしまいました。

その数日後、軽井沢駅前に場所を移し、ようやくテーマ「住民に支持される保存とは」サブテーマ「地域社会で望まれる建築家の役割」という形にこぎつけました。対象はあくまで住民です。具体的には長野市内と須坂のウォッキング、宿泊、トーク＆ドリンク、翌日は長野市内をぶらぶら歩き、会場を移して長野地域会による運動の具体的事例発表、それに続いて数名によるパネルディスカッション、会場との意見交換で真剣かつ活発に話し合い、「大会宣言」でまとめる、というものに決まりました。長野地域会では一丸となって取り組む



わけですが、主に保存問題特別委員会とまちづくり委員会が手分けして段取りに当り、事前に様々な資料を用意しなくてはいけません。まちづくり委員会ではこれを機会に県下の現存の近代建築物をすべて調べ、リスト・パネル化し、会場に用意する。人の移動や会費、パネルディスカッションの人選その他の段取りは保存問題委員会のメンバーにて行うなど、少ない期日の中でかなりの詳細に渡り準備することになりました。

ものづくりや価値観が多様化し方向の定まらぬ不安定な昨今、再生・循環・ストック・リサイクルなどの言葉を聞くようになり、「保存」の意味が広がっています。建築環境も中央では保存活動や運動が盛んに行われています。長野にも住民・行政・専門家が行動を起こし、まだまだ少ないと私は思いますが、各地で負けないくらい実例が伝わってきます。今の時代だからこそ、「保存」というものに目を向けてあくまで住民の視線で地域と共にある私たち建築家はどうあるべきか考える絶好の機会かと思います。是非、仲間や家族、友人など多くの人々が集い、共に語り考えようではありませんか。

## インターンシップを終えて

### <受け入れ側の一言>

#### 設計への取り組み方を見てもらうことが大切

林魏建築設計事務所 代表取締役 赤羽 吉人

「インターンシップ=模型づくり」という認識が学生の間にあるようなので、今回は一步踏み込んで、自分たちの提案に対するクライアントの要望をどう反映しながら設計を進めていくのか、その結果を出すために模型を作っているんだといった点も少し見ていってほしいと思って杉田さんを迎えるしました。

模型を作りながら形を整えていく設計手法自体は、彼女にとって特に違和感はないようでしたが、せっかく作りあげた模型がすぐに過去のものとなってしまい、設計内容は次々と変わっていく様子には多少戸惑いを感じたかもしれません。

実習期間が1週間では触りだけで終わってしまうのでその点は残念ですが、いずれにせよ、設計の現場を自分の肌で感じてもらうことはとても大切であり、この制度には今後も協力を惜しまないつもりです。

### <学生の感想>

#### インターンシップの感想

信州大学工学部社会開発工学科建築コース3年 杉田 愉季

今回建築事務所での学外実習ということで、模型作りとCADでの立面図作成をやらせてもらいました。建築事務所に対するイメージは緊張感漂う厳しいものと思っていたのですが、実際にはとても落ち着いて、自分の仕事を黙々と進めているようでした。

大学の講義の中で設計事務所を覗くようなビデオを見たことがあります。施主さんから依頼を受け完成するまでの流れはそれでいたいわかっていましたが、実際に自分勝手な基本設計しかやったことのない私にとって、実施設計に移していくために基本設計の段階で施主さんからの要望、実際取り入れる設備などによる「変更」を受け入れることは初めての体験でした。そこに学生の設計製図では味わうことのない「実際に建物が建つのだ」という責任感があり、そんな感覚を羨ましく思いました。

実際の作業では、設計事務所が提案する設計内容を施主さんに受け入れてもらえるために、施主さんからの要望をどう取り入れるかについては、とても難しいと感じました。でも私が設計でやってみたいというか大切にしたいのは、施主さんとの十分な話し合いです。その人の意向をどれだけ聞き取れるかが、満足する建築を作り出すのですから、聞き入れるだけ聞き入れてこまめに話し合いをもてるようにしたいです。それでも建築のことが全くわからない施主さんもいらっしゃるでしょうから、興味を持ってもらえるよう努力するべきです。建てる側にも建築物が周りに与える影響とか建てる過程とか責任感を感じてほしい。車が増えるように建物もどんどん建てば取り壊すようじゃもういけないように思います。

最後に、せっかく設計事務所に行くのだから、言われたことだけやるのではなく、何か得てこうよう思っていたのですが、実際には自分のことをやるので精一杯でした。それでも途中途中にCGでのバースの作成や作品を見せてもらい、また建築法規の解説について事務所の皆さんと質問され一緒に検討する場面など事務所内のいい雰囲気がよく伺えました。

今回は自分の行った作業というより事務所の体験としていいものでした。

### <受け入れ側の一言>

#### 建築家は、自身の建築を語り続けていくべき

片倉隆幸建築研究室 代表取締役 片倉 隆幸

今年の夏のオープンデスクには、金沢工大の森 俊偉教授（大学の先輩）の研究室から学生を迎えた。模型と向き合うことは、自分と向き合うことであり、自分の生き方、作法を確認していくことであると思う。僕自身も芝浦工業大学の非常勤講師を引き受けている立場から建築系大学における建築家教育のあり方として学部在学中の実務教育は、重要であると頃感じていたこともあり今回の池上君のように大学院2年生でのインターンシップは今後必修にすべきだと考えているところです。建築家は、やがて日本を背負う学生たちにも自身の建築を語り続けていくべきだと感じる。

### <学生の感想>

#### インターンシップの感想

金沢工業大学 大学院修士課程 建築学専攻2年 池上 博章

今回、私は小さい頃からの「将来生まれ故郷である長野で事務所を開く」という夢の実現のためにこの夏季休業を利用し、私の研究室の指導教授でおられる森 俊偉教授の紹介により、長野県岡谷市で片倉隆幸建築研究室を開業されておられる片倉 隆幸先生の下で約三週間オープンデスクに参加させていただけた次第となりました。

オープンデスクで私に与えられた仕事は1/50での住宅の模型製作でした。学校の課題や模型制作のパートで模型を製作することはあっても、そのほとんどが1/100や1/200スケールでの模型ばかりで1/50での模型製作は一度だけしかなく、また、そのほとんどが平面・立面・断面の簡略な図面での製作でしたので、家具や建具の収め方など細部まで詳細に描かれた図面の基での模型製作は、最初はどの図面をどのタイミングで見たらいのか判らず、悪戦苦闘しました。しかし、実際に製作した模型が邸宅の玄関に飾られると聞き、難しさの反面、やりがいも実感しました。

今回、片倉 隆幸先生の下でオープンデスクを行ったことで設計事務所の仕事の一端を垣間見ることができ、頭の中に思い描いたモノを実際にカタチにするという建築家の仕事の喜びに確信を深めると共に、より一層将来への展望を抱くことができました。



# 第1回・飯田市Watching開催

まちづくり委員会  
委員長 丸山幸弘

9月26日(木) 飯田地区のウォッチングを開催しました。地元の松下重雄会長、久保田正博さん、新井優さんには下見など準備段階から大変お世話になりました。今まで長野県クラブでは北信、東信、中信とウォッチングをしてきましたが、南信地域は初めてです。未知の世界と言つても良いでしょう。視察順路は次のとおりです。

飯田市役所集合 → 喜久水酒造・酒造蔵 → 飯田ルテール幼稚園・教会 → 高野産婦人科医院 → 安藤大将生家 → 下伊那教育館 → 二本松・遊郭 → 旧飯田測候所 → 飯田市立追手町小学校 → 松尾・八幡旧街道に移動 → 鳩ヶ峯八幡宮所蔵の土蔵 → 西沢家 → 吉川酒店 → 犬塚商店 → 平栗薬局 → 旧八十二銀行八幡支店 → 久保田写真館 → JR伊那八幡駅・JR変電所 → 松尾公民館旧講



▲松尾・八幡旧街道

堂・ふれあいの郷・松ぼっくり → 上郷黒田人形舞台、以上18カ所を約3時間で見て回りましたが、非常に盛況で忙しいスケジュールになりました。内容も充実しており半日では足りないほどです。空き家もありましたが、建築の用途は変わった物もありましたが、ほとんど現在も使い続けています。「保存」とは、使い続けてこそ意味があるのだと感じました。しかし、同時に「保存」とは、難しい物だとも実感しました。見学後の意見交換会でもいつものように議論白熱状態になり、1時間半の時間延長となり解散となりました。参加できなかった方、飯田市に行く機会があれば是非、同上の建築を見て下さい。得る物は非常に大きいです。参加された方、地元に帰って仕事にフィードバックして頂ければ幸いです。そして、大変御苦労さまでした。



下伊那教育館▶

## ひとり言

会員の皆様からの「声」を掲載するコーナーです。

### されど、やっぱり、絶対「小布施」一浪合村で想う

先日、知事が安藤忠雄氏を京大の助教授と共に、長野に招いてのシンポジウムに参加致しまして、その時の感想を簡略に述べさせていただきます。ル・コルビュジエの作品を何度もなく、スケッチして会得したという手腕は確かに、光と影・時間のコントロール等絶品かと思われます。が、しかし、鉄とガラスとコンクリートの時代は、終わったと言いたい…。

世界的な環境保全意識の中で、熱帯雨林のフタバガキ科の合板を大量に使い、機械換気に頼るガラス建築は、いかがなものか…あれだけの打ち放しに精力的に取り組んだ前川さんが、後期タイルの打ち込みに切り替えたのは、御存じの筈ですが…またアドバイザーとして磯崎新氏を考えているとの事。建築のマスコミ界の評価と、地域に根差し、後年に正当な評価を受ける建築物の違いをつくづく感じます。

追悼 内井昭彦様

第5回の建築文化賞審査の折、雨の中、松本より片道2時間半も掛けられ、宮本先生と一緒に南端の遠山谷まで来て下さいました。車中興味のある、お話を伺い、風呂も一緒に入り、遠山のソバを食べたのが思い出になってしまいました。今こそ「健康な建築」という言葉が再確認される時代だと思います。ご冥福をお祈り申し上げます。「合掌」

環境プランニング 主宰  
木下 光

地域の建築という言葉を聞くと、私はすぐ「小布施」を思い浮かべます。馬籠とは違い、単なる過去の継続でないもの…伝統を引き継ぎながら、現時代の素材感技法が組み込まれ、地域性を強く醸し出した町並み…入念な寒冷地仕様のディテール、木・左官材・レンガタイル・瓦材等のハーモニー、本店2階の玄人以上の数寄屋の納め…等々地方の建築士として、感動し、目標とすべき姿がそこにあります。伊那谷の山間地の建築士として、地味ではあるが間違いのない時代性を少し加えた物を、一作一作産み出していくこうと思っています。



▲浪合村営住宅

## エコー

賛助会員の皆様からの提案などを掲載するコーナーです。

### 胸を張れる仕事をしましょう

フジクリーン工業(株) 渋谷栄一

建設業界は今もそしてこれからも厳しい状況が続くことは間違ひありません。これまでが良すぎました。今までこれからも良き時代は続くが合言葉でした。それ故、自分たちが本来しなければならない努力を怠り、幻想を追い続けてた結果が今の状況を創りだしました。

でも、時代が悪い方向に向かった瞬間、品質・技術を無視して価格のみの世界へ変貌してしまいました。

これほど、節操のない業界はありません。

建設業界に携わる人たちの全ての人が誇りを持った仕事をすることが、現状を開拓すると思います。

組織であれ個人であれ自分自身のウイニングショットを作り、存在理由を明らかにすることが必要と考えられます。その意味で(社)日本建築家協会JIA長野県クラブがその規範となるべきであり、なれると確信しています。

私は本年6月度より入会させて頂きましたが、最初の総会でテーブルに分かれ討議を行いました。その表題が〈本音で語ろう〉です。

他では考えられません。素晴らしいです。これこそが基本だと思います。

自分自身のことを本音で語りお互いを高めてこそ、誇りある仕事が出来ると信じています。

今後も努力を怠らずお客様から“有難う”と言われるプロであり続けましょう。

第1回 7/24「本音で語ろう会」▶

※第2回は12月上旬予定多数お集まりください。



### 郊外公衆トイレの改革 バイオR21

大央電設工業株式会社 町田喜義

弊社バイオトイレ開発目的は、1.自然エネルギーを活用した災害対応型の移動式バイオトイレを造ること。2.家庭からできる廃棄有機物を総てバイオトイレの中で発酵分解し、安全なコンポストにして自然に返す。

この2点にてハード面・ソフト面の開発をした。

#### 【ハード面】

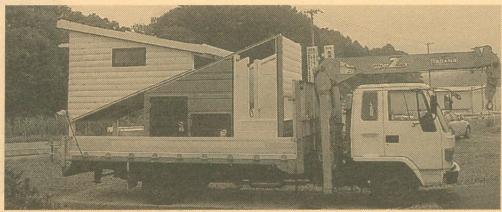
- ・省電力対応を実現する為に、断熱保温対策を改良。
- ・各回路故障時の通報機能を設け、電波による通報またはカメラ連動の周辺管理に対応できるシステムを開発(特許出願中)。

#### 【ソフト面】

- ・平成14年6月に信州大学農学部と共同研究の契約を締結し、バイオトイレにおける微生物発酵の解明の研究に入った。また、同7月には減容再生型バイオトイレ研究会を発足し、発酵分解をする微生物の種類を決定し、微生物が分解活動のし易い菌床の開発をはじめ、数々の解明の中より、それに伴ったハード面の開発を行っている。

#### 新製品ディィバー(DBR)シリーズ

- ・常設型(JDBR)、移動・常設型(MDBR)、仮設型(TDBR)を発売した。
- ・共に商用電力・太陽光発電・風力発電・蓄電方式を採用できる。
- ・移動式バイオトイレ(MDBR)は、屋根にソーラーパネルを搭載したまま4トン車ユニックにて移動・設置を可能にした。(特許・意匠出願中)



## クラブアウトサイド

### 第4回支部教育委員会……………市川 英一

7月31日開催。前回議事録の確認及び「見学会」継続事業について。

「見学会」のタイトルと予定は下記の通り。

タイトル：「時を経て輝き続ける建築の記憶～東京の名建築を建築史家と訪ねる～」

（予定）

1.10月3日（水）13:30～15:30 講師：大川先生 昭和モダン住宅（蒼梧記念館、光風亭）

2.11月5日（火）14:00～16:00 講師：内田先生 昭和の教会（聖路加国際病院チャペル、築地カトリック教会、明石小学校）

3.11月8日（金）10:00～12:00 講師：内田先生 明治・大正の洋館邸宅（清泉女子大学、開闢閣）  
また、下記の3点については保留、今後検討したい。

1.丸ビル、三信ビル／調整中（カルチャー原稿の締め切りに間に合わない）、JIA単独実施？ 2.焦雨園／受け入れ側がカルチャーに難色を示している。JIA単独なら実施可能か？ 3.慶應三田キャンパス／谷口吉郎設計の図書館が解体されるので、見ておくようにと大川先生の勧めあり。

### 支部長会議（出澤理事、松下長野代表、高橋・上村各長野役員）

8月21日（水）、長野市飯綱山荘にて開催。報告事項は下記の通り。

(1) 支部活動報告（5月～7月分）

(2) JIA課題と報告

（1）会員増強運動について （2）2003年以降の大会開催方式の内定について

（3）UIA大会誘致活動の結果と今後について

（4）会費及び会員種別検討特別委員会の動きについて

（5）全国地域会合同会議の開催について

（6）CPD実施の現状と自主申請マニュアルの発行について

（7）JIA大会2002沖縄の現況について （8）太陽光キャラバン2002について

協議事項は下記の通り。

「パート1」

テーマ 建築家資格制度を巡る動きについて

（1）本部における動きと今後の方針について

（2）近畿登録建築家制度を踏まえた支部における資格制度推進の動きと今後の取り組みについて

「パート2」

（1）建築家の業務改訂版レクチャー （2）設計者選定・QBS方式周知活動について

（3）対社会向け事業の全国展開に関する促進について（建築相談・環境・保存・ハービル・都市災害・まちづくり）

## 第10回全国地域会合同会議

8月24日開催。

「パート1」

〔1〕大宇根会長による基調講演

「JIAの重要課題に対する取り組み方針について」—その課題点と具体的取り組み／建築家資格制度の現況とJIAにおける今後の展開—

〔2〕報告を受けての質疑応答

「パート2」

研修会

「入札に代わる設計者選定・QBS方式の推進に向けて」（建設産業基本問題委員会

設計入札問題WGからのレクチャー）

「建築家の業務改訂版の普及に向けて」（業務委員会からのレクチャー）

## クラブインサイド

### 第2回総務委員会……………総務委員長 赤羽 吉人

9月5日、ルートイン松本インターにおいて開催。

中心議題は長野県クラブ会員向けの新たな情報発信活動（FAXレポート「長野県建築家俱楽部ニュース（仮称）」の発行）について。ホットな情報を会員と共に共有できるようにという広報委員会の意気込みに総務委員会としても全面的にサポートすることを確認した。ホームページの改定についても論議し、この会報が発行される頃には新しいホームページを見てもらえると思われる。その他、規約改定に伴う正会員の手続き進捗状況や、新規入会会員の報告等話し合われた。

### 第5回幹事会報告……………西沢 利一

去る9月19日、松本の飯田屋ホテルを会場に第5回幹事報告会が開かれた。

出席者がわずかではあったが、今回は重要な案件が議論された。

1) JIA俱楽部ニュース（仮称）の発行について

2) ホームページの運用方法について

3) 10月～12月のCPDプログラムについて

4) 規約改定に伴う、手続きの進捗状況報告

5) 新規入会員のキャンペーンの現在

6) 支部選舉管理委員の選定→丸山幸弘さん

7) JIA沖縄大会動員について

8) アーキテクツガーデンの詳細

9) ホームページ支部対応（メンバーシステム）→林 隆さん

10) メールによる問い合わせ対応について

11) 地域助成費の取り扱い等 以上の問題が長時間にわたり検討された。

なお、詳しくは事務局又は各幹事にお問い合わせ下さい。

## 盛り上がった「保存問題長野大会理論合宿」

### 保存問題委員会委員 山口 康憲

去る8月23、24日の二日間に渡って、関東甲信越支部-保存問題委員会の「保存問題長野大会理論合宿」が長野市において行われた。23日は長野インター近くで集合の後、久保会計幹事の案内で「長野市博物館」「緑草舎」を見学した。個人的には初めてということもあり特に緑草舎に感銘を受けた。雑誌では知っていたが実際のスケールとディテールを確認することによって、ワクワクするようなひとときを過ごすことができた。久保さんありがとうございました。

その後、善光寺近くの藤屋旅館において今回の「理論合宿」の本番である支部委員会のメンバーと長野地域会との意見交換会が行われた。支部委員会からの説明によると、大会は支部の公式行事として12年前から長野を皮切りに各県持ち回りで行い昨年の栃木大会で一巡したが、年を重ねる毎に支部委員会と各地域会の「保存問題」に対する問題意識や大会のテーマ、構成を巡っての認識の違いが顕在化してきたという経緯があり、「理論合宿」は双方のその違いを徹底的に議論することで共有化を目指すという目的で開催されていることである。

そういう背景を受けて、支部=東京は「保存問題」を世界的あるいは日本全体の問題として捉え、個々の建築主として“近代建築”的保存の正当性を創造的行為

として理論化したいと目論んでいるのに対し、地方では主として経済的な理由から歴史的な“まち並み”や“民家”的保存・再生を「保存問題」として取り組んでいることが多い、という問題提起がなされた後、2月の大会の目的を共有化してテーマを決めるというこの意見交換会の目標が示され正に喧々諤々の討論が行われた。一時は、「保存問題」あるいは「創造的な設計行為」に対する認識の隔たりのあまりの大きさに議論の行方が危惧される一幕もあったが、双方から真摯で建設的な意見が数多く出され、二日間で5時間以上に亘った真剣な討論の末に共通の認識として一定の方向性を示すことができたのは大きな成果であった。それを受けて、今月下旬の支部委員会も参加する地域会特別委員会において「テーマ」、「サブテーマ」、「シンポジウムの概要」を決定する予定である。

初日の白熱した討論の後、全員で懇親会に参じて、その後でお互いに何となく感じていたヨソヨソしさも解消し大会に向けての一体感が生まれたのもよかったです。

2月の大会の準備は「保存問題特別委員会」と「まちづくり委員会」合同で行われるが、これを読んで面白そうだと思った方も以前から興味のあった方もなるべく多くの方々に参加していただいて、長野大会を盛り上げようではありませんか。

## 新会員増強キャンペーン 強力新人会員5名決まる

池森 梢……………萌建築設計工房／須坂市新町885-38

上條みゆき……………アーキオール幸／松本市笹賀5913-6

## JIA長野県クラブの出版物ご案内

### あなたの夢を建築家が実現します!!

信州で「家づくり」に情熱を傾ける建築家を一挙紹介!!

「設計を建築家に頼みたいが、敷居が高い・・・」とお考えのあなたに、

建築家一人一人の「仕事」を

写真と文章でご紹介。

家づくりの最良のパートナーに出会える一冊です。

既刊本「愛と情熱の家づくり」定価¥1,429

既刊本「建築家とつくる家」定価¥1,429

お問い合わせ・お求め

JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内

TEL:026-232-3897



中家博之……………みすゞ設計／飯田市東中央通り5-15

藤松幹雄……………藤松建築設計室／松本市開智1-5-13

坂牧弘之…坂牧建築計画工房／下伊那郡高森町下市田2151-1

## 編集後記……………西沢利一

事務局のパソコンが、整備されたせいか、メールによる原稿が早く届くようになった。禁煙ゾーンが拡大するのにあわせて、自分のようなオールドな人間は、益々生きてゆくゾーンが狭まっている。俱楽部ニュース（仮称）も第一号が発行され、会報とタイナップサンブルで、情報がぎめ細かに会員各位に伝達できるようになったと思っている。只、多くの人のエネルギーと時間が費やされていることを理解頂いて、読んでもらいたいことと、一方通行ではなく、意見や批評といった形でも、是非JIA活動に参加して欲しい。

編集人 西沢利一

発行人 松下重雄

発行所 JIA長野県クラブ

長野市南長野妻科426-1

長野県建築士会館内

TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303

作成 アッカグラフィックス／新建新聞社

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。